

Medical Salon NANAŌ

# メデイカルサロン — な な お —

第  
84号



令和7年の石崎奉燈祭は、「復興元年」を掲げ、震災前と同じく6基の奉燈が出そろいました。写真は、午前2時頃、「堂前」で迎えたフィナーレの場面です。多くの見物客が見守る中、祭りは最高潮を迎えました。

写真・文 佐原博之

## 目次

表紙	p. 1
会長あいさつ：北村勝	p. 2
医療と介護をつなぐ：中尾義広	p. 3
神野正博先生全日本病院協会会長就任パーティー	p. 4
お元気ですか？：瀧崎宇一郎	p. 5
第21回スポーツ医科学研究会	p. 6
専門職の紹介、新しい検査や医用機器・医療技術の紹介	
恵寿総合病院：川北慎一郎	p. 7
公立能登総合病院：靄島大二郎	p. 8

これだけは言わせて：佐原博之	p. 9
七尾看護専門学校だより	p. 10~11
ななお紫蘭の会 活動報告／	
あじさい会 活動報告	p. 12~13
医師会の窓	p. 13
副会長のコーナー／短信／編集後記	p. 14

## もう一步前へ

七尾市医師会 会長 北村 勝



能登半島地震が発生してから2年半が経過しました。家屋、道路、ライフラインなど甚大な被害がありました。街を散策すると建て替えられた住宅が増えつつあり、復興の兆しがみられます。今年の青柏祭は沢山の人々が参加し、活気が戻ったように見えます。その一方で、住居を失った方々は今も仮設住宅での生活を余儀なくされています。不自由な環境で暮らしておられる皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

さて、七尾市の医療・介護・福祉は地域の皆様、行政、議会、医療機関等の尽力により、少しずつ再建が進んでいます。しかし、医療供給体制の課題は依然として大きいと感じます。「震災前に戻す」ではなく、「震災を乗り越えて持続可能な地域医療を作る。」という視点が大切です。能登半島地震後の災害関連死は今も続いており、完全復興には、道半ばという状況です。

七尾市医師会として取り組むべきことの一つは、震災後の住民の健康維持です。在宅医療と介護の連携強化、認知症支援体制の拡充、心身ともに健康を取り戻すことが震災復興の柱として位置づけられると考えています。実現可能な新しい医療モデルをつくることも必要です。

そのためにも、医療人材の確保と定着支援の強化が重要と考えます。能登の人口は、震災前より15%以上減少しました。医療スタッフも同様の状況であり、高齢化が進む能登地区において、看護師不足は地域医療の持続可能性の有無を左右する最重要課題です。本会として取り組むべきことのもう一つは、能登地区における看護師確保と看護学生への力強い支援です。

七尾看護専門学校は、昭和38年、七尾市医師会附属准看護養成所として開校後、現在までに2,200名以上が卒業しました。毎年、約7割の卒業生が能登地区の医療機関等で看護業務にあたっ

ています。地元定着率が極めて高いのが本校の特徴です。

しかし、少子化や震災などにより看護師の希望者が減少しています。すでに本校にも影響が及んでおり、数年後には存続が危ぶまれる状況です。もしこの学校が失われれば、毎年20-40名の看護師供給が途絶えます。医療現場の看護師不足は一気に深刻化し、病院機能の低下や、在宅医療・地域包括ケアの維持が困難となります。これは、単なる教育機関だけの問題ではなく、地域医療の崩壊につながる構造的危機です。震災からの復興どころか、地域における医療基盤が根こそぎ失われる可能性があります。

本会では、このような事態を避けるため、能登の医療を守るためにも七尾看護専門学校を存続させたいと願っております。皆さまと共に、「能登で学び、能登で働き、能登を支える看護師を育てる仕組み」を守り抜く覚悟です。震災を経験した地域だからこそ、人材を育てることの価値は何よりも重く受け止めています。ご一読の皆さまにおかれましては、この危機を共有していただき、力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年の青柏祭の曳山行事は、例年以上に盛り上がっているように感じました。多くの人々に笑顔が見られ、熱気が町全体を包んでいるようです。ミニでか山車を一步も二歩も前にと牽引する子供たちに力強さを感じます。七尾市医師会は「能登の医療をもう一步前へ」進めていきたいと思っています。どうか力を貸してください。

七尾看護専門学校ホームページでは、学校案内、オープンキャンパス、令和9年度募集要項、学生生活、インタビューなどを紹介しています。SNSでの情報発信もしていますので、ぜひご覧ください。

### 青柏祭山車



七尾市ミナ・クル横にて「ミニでか山」



七尾駅前にて「でか山」

## 医療と介護をつなぐ

なごみの里鹿島 中尾義広



今年4月から中能登町の介護老人保健施設「なごみの里鹿島」へ管理者として勤務することになった中尾です。私は、平成5年に中能登町良川で内科医院を開業しました。その当時はまだ高齢者はそれほど多くありませんでしたが、徐々に高齢化が進み、団塊の世代がすべて75歳以上となる2025年問題という言葉が生まれました。2000年には介護保険制度が創設され、高齢者の介護施設が次々と設立されていきました。町内には、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム略して特養）、介護老人保健施設（以下老健）、グループホームがあります。特養は最期まで入所できるので次の施設を探す必要はありません。老健は入所者に対して、理学療法士・作業療法士・言語療法士などの専門的なりハビリテーション、介護士による食事・入浴・衣類の着脱など日常生活訓練を施して自宅復帰を目指す施設です。自宅復帰が難しい場合は、特養や有料老人ホームなどの施設へ移ることもありますが、自立して生活することを目指しているのが原則3か月ないしは6か月の入所期間が定められており、いわゆる終の棲家ではありません。ただし最近では、自立した生活が可能とはならず、入所期間が長期となる場合もあります。徐々に衰弱し施設での看取りとなるケースも増えてきているようです。グループホームは、認知症高齢者が共同で生活し、入浴・排泄・食事などの介護、その他の日常生活上の世話や機能訓練を行う施設です。

前述したように、老健は病院を退院した方がいきなり自宅へは戻れない場合に、3～6か月リハビリをして自宅復帰を目指すために設立された施設です。しかし、高齢化率の高まりとともに自宅復帰ができず、特養へ移ったり、老健で看取りをしたり、長期入所となる方も増えてきています。入所期間は全国的にも長くなっています。従って施設の医師の役割としては、入所者の診察やリハビリの指導だけでなく最期の看取りもあります。施設内では詳しい検査や高度な治療はできないので、適宜協力医療機関へ依頼しています。

以上、老健について簡単に説明しましたが、私が老健に勤めることになった経緯に触れさ

せていただきます。私は7年前に非常に珍しい2つの病気に同時期に罹患しました。いずれも確立された治療法がなく対症療法で乗り切るしかありませんでした。激的な痛み（鎮痛剤はいつい効かないと医学書に書かれていました）が1か月以上続き、一睡もできない日々でした。不眠が長く続いたこともあり、自律神経失調症がひどく10か月間休診せざるをえませんでした。再開後も体調はあまり良くありませんでしたので、後継者を見つけて引退し、のんびり余生を過ごすつもりでした。ところが、ほどなくして新型コロナウイルス感染症が日本に上陸し、発熱外来の設置を国から要請されました。任意でしたが手を挙げ、この発熱外来を開業医としての最後のミッションにしようと思いました。その後、ワクチン接種が始まりミッションは2つとなりました。令和5年に2類から5類感染症となり、重症化率も徐々に下がってきました。ミッションも最終章で、そろそろ引退をと考えていたところに、以前から交流のあった「なごみの里鹿島」さんから、常勤医師として来てもらえないかとお誘いをいただきました。昨年、母親が町外の老健に入所していて多少調べていたこともあり、熟考の末、引き受けることにしました。

なかお内科医院へ通院されていた方にはご迷惑をおかけしましたが、別の形で中能登町の医療・介護へ貢献したいと思っていますので今後ともよろしく願いいたします。



機能訓練室

令和8年  
1月20日  
(火)

# 神野正博先生 全日本病院協会会長就任 祝賀会

七尾市医師会会長である北村勝先生が発起人となって、令和8年1月20日に神野正博先生の全日本病院協会会長就任を記念し、祝賀パーティーが番伊（七尾市）で行われました。神野正博先生より演題「“病”院をぶっ壊せ」を記念講演していただき、花束・記念品贈呈、恵寿総合病院院長（鎌田徹先生）より乾杯の挨拶、公立能登総合病院院長（上木修先生）、独立行政法人国立病院機構七尾病院（安井正英先生）より祝辞をいただき食事会も開催しました。七尾市医師会（24名参加）会員だけの身内主催で小規模の会ではありましたが、昨今の厳しい医



療情勢もある中、活気があり元気が出て笑顔の見られる和やかな会で、最後に藤田普宏先生（七尾市医師会副会長）の一本締めで祝賀会を締め括りました。

(文責：高澤雅至)



北村 勝	松	神野正博 様	円山寛人	竹	魚岸 誠
安田紀久雄		鎌田 徹	国下正英		宮本正治(欠)
奥村義治		上木 修	森 善裕		中谷茂和
		安井正英			
山本ひろみ	梅	根上昌子	中村耕一郎	宝	田中文夫
佐原まゆみ		荒井美奈子	神野正隆		高澤雅至
池崎綾子		神野 彩	藤田晋宏		神前昭太郎



公立羽咋病院 院長

## 淵崎 宇一郎 先生の巻

### ご無沙汰いたしております

令和2年3月まで、恵寿総合病院に勤務しておりました淵崎宇一郎でございます。その後公立河北中央病院を経て、令和7年4月より公立羽咋病院にて診療にあたっております。勤務の地こそ変わりましたが、能登の地域医療に携わりたいという思いは変わらず、日々患者さんと向き合っております。

恵寿総合病院在職中は、理事長 神野正博先生、宮森弘年先生、諸先生方ならび職員の皆様の温かいご理解のもと支えていただき、自らの志す医療に真摯に向き合い、日々の診療、検査および内視鏡治療に専心することができましたこと、あらためて深く感謝申し上げます。



印象深い思い出は枚挙にいとまがございませんが、故日野原重明先生がご来院され、病棟回診をなさった際の光景は、今なお鮮明に心に刻まれております。また、多くの研修医の先生方とのかかわりや、著名な先生方をお招きして



開催された市民公開講座、内視鏡ライブや講演会などは、日々の診療に新たな視点と刺激を与えてくれる貴重な機会であり、現在の私の礎となっております。なかでも、日本大学病院消化器内科教授（現・がん研有明病院）の後藤田卓志先生や慶應義塾大学病院消化器内科教授の金井隆典先生には、数回にわたりお越しいただき、ご指導やご講演を賜りました。

七尾消化器カンファレンス（1995年5月～2016年3月、全161回開催）では、公立能登総合病院の中泉治雄先生のご指導のもと、医師会の先生方とともに数多くの症例検討に参加させていただきました。

現在の勤務先におきましても、七尾の地で培った経験を大切に、地域医療の発展に微力ながら貢献してまいりたいと存じます。今後も七尾市医師会の先生方とのご縁を大切に、引き続きご指導ご鞭撻を賜れましたら幸甚に存じます。

末筆ながら、震災からの一日も早い復旧・復興を願いつつ、皆様のますますのご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。



第21回スポーツ医科学研究会

私の相撲人生 ～ケガと再起、そして次世代へ～

国立病院機構七尾病院 高澤雅至

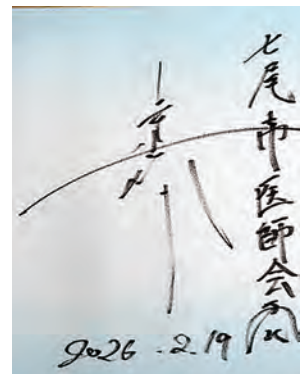
令和8年2月19日(木)に七尾市スポーツ協会・七尾市医師会の共催にて第21回スポーツ医科学研究会が七尾市文化ホール大ホールで開催されました。今回は、進行をフリーアナウンサーである平見夕紀さん(七尾市出身)が務め、石川県穴水町出身である追手風部屋・北陣親方(元小結・遠藤聖大)をお迎えして、「私の相撲人生～ケガと再起、そして次世代へ～」を特別講演していただきました。北陣親方は、学生より相撲界に入っすぐ2場所で関取に上がり、得意技は左四つ寄りで十両優勝1回、殊勲賞1回、敢闘賞1回、技能賞4回の受賞、一方、度重なるケガを乗り越え不屈の闘志で12年半の土俵を務めたが令和7年11月1日に現役を引退、「北陣」を襲名発表されました。寡黙であった現役生活においても小学生時代より腰痛、軽い故障時は“気のせい?”の精神で乗り越え、リフレーミングの気持ちでメンタル面を支えてきたエピソードなどユーモアを交えながら語っていただき、来場された方や少年少女達の質問にも気軽に答えてくれたり、じゃんけんゲームやビンゴ大会で貴重なサインもプレゼントして頂きました。平日の夕方の講演会にもかかわらず、会場の駐車場が停められない程の約500名を超える来場者も非常に盛り上がりました。引退してもなお、遠藤大人気!を思わせる様な素晴らしい会でした



**第21回スポーツ医科学研究会**  
**【抽選券(控)】** ※抽選会の時に使用します。

【演題】 私の相撲人生  
 ～ケガと再起、そして次世代へ～  
 【講師】 北陣親方(元遠藤聖大) 進行: 平見夕紀  
 【講演日】 令和8年2月19日(木)  
 【時間】 18時30分開演  
 【場所】 七尾市文化ホール大ホール

抽選番号  
**549**



専門職の紹介、新しい検査や医療機器・医療技術の紹介

# rTMS治療への期待

恵寿総合病院 副院長・リハビリテーション科長 川北 慎一郎

当院リハビリテーション科（以下リハ科）ではこれまで他院に先駆けて脳卒中治療ガイドラインで推奨される新しいリハビリ機器（体重免荷式歩行訓練装置、上下肢自力アシスト電気刺激装置、上肢リハロボットなど）を導入し、さらにこれらと手足へのボツリヌス治療を組み合わせるといった先端的ニューロリハ（神経リハ）に取り組んできました（図1）。2025年6月から新たに反復性経頭蓋磁気刺激療法（repetitive transcranial magnetic stimulation；以下rTMS）を開始したので紹介します。

rTMSとはFaradayの電磁誘導の法則を応用して人の脳神経細胞を非侵襲的に刺激する方法です（図2）。現在rTMSはわが国では難治性うつ病にのみ保険適応がありますが、欧米では2008年ごろから、日本でも慈恵医大を中心に2010年ごろから脳卒中や脊髄損傷、神経疾患後遺症の治療に使用され、その有効性につき多くの研究が進められてきました。rTMSの特徴として侵襲性の低さがあげられ、正しく使用すれば副作用もほとんど見られません。rTMSの脳刺激方法には大別して刺激した局所脳の活動性を賦活する高頻度rTMSと、局所脳の活動性を抑制する低頻度rTMSがあります。正常の左右脳には脳梁を介した半球間相互抑制も働いているとされており、この機能も利用し、発症時期により高頻度・低頻度刺激を選択・組み合わせることで多くの疾患治療に利用されます。現在まで日本で最も多く行われて来たのは慢性期上肢麻痺への健側低頻度刺激で、2021年脳卒中治療ガイドラインでその有効性につきエビデンスBとされました（図1）。治療先進国が多い欧州のrTMS治療ガイドラインではエビデンスAとして上肢麻痺に加え、難治性神経障害性



図2 rTMS実施状況

疼痛があり、エビデンスBとして下肢麻痺、薬剤で効果不十分なパーキンソン病の歩行障害、重度ではない非流暢性失語、難病の慢性疲労症候群などへの使用が推奨されています（図3）。

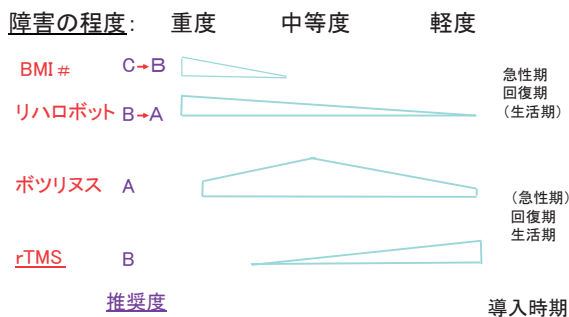
図3 rTMS 欧州治療ガイドライン  
clin Neurophysiol 2020年

- A（確実に有効）
  - 神経障害性疼痛（対側運動野、高頻度）
  - うつ病（左背外側前頭前野、高頻度）
  - 亜急性期脳卒中上肢麻痺（健側運動野、低頻度）
- B（おそらく有効）
  - 亜急性期脳卒中上下肢麻痺（損傷側、高頻度）
  - 慢性期脳卒中非流暢性失語（右下前頭回、低頻度）
  - パーキンソン病歩行障害（両側下肢運動野、高頻度）
  - 多発性硬化症の下肢痙縮（下肢運動野、高頻度）
  - 慢性疲労症候群（左背外側前頭前野、高頻度）

当院では治療案内書作成と共に院内倫理委員会での承認を得た後、2025年6月にrTMS治療を開始しました。現在までに約60例の患者さんに1～2週間入院してもらい、集中的リハビリ治療を併用したrTMS治療を実施してきました。治療内容は上肢麻痺・失調が16例、下肢麻痺が20例、パーキンソン病およびパーキンソン症候群による歩行障害が8例、難治性神経障害性疼痛が7例、非流暢性失語が3例、慢性疲労症候群が4例、脳卒中後アパシーが2例です。結果は上肢麻痺・失調では約80%に明らかな上肢機能の向上が、下肢麻痺では約90%に歩行速度、歩幅、歩行バランスの改善が得られました。神経障害性疼痛では臨床心理士による認知行動療法も組み合わせていますが、有効率は約70%でした。脳卒中後アパシーの2例はrTMS後アパシースコアが著明に改善しましたが、慢性疲労症候群や非流暢性失語の改善は約50%程度でした。現在のところ治療前に有効性を確実に予測できないことが、いまだこの治療が保険適応とならない理由の1つであるようです。治療前の脳機能として時に脳血流を測定しますが、将来機能的MRIなどが評価できるようになれば、より有効性予測や治療部位などの精度が上がるのではと考えています。

いずれにしてもrTMSは低侵襲で低リスクな治療であることは改めて確認できました。時に予想以上の効果が得られ、患者さんだけでなく治療者もびっくりすることもたびたびありました。今まで、個人的に検索して、東京などで苦勞してこの治療を受けていた人が多くいることもわかりました。当院でも多くの患者さんが金沢や富山から受診されています。まだまだ解決すべき問題は山積していますが、安全性の高い非侵襲的脳刺激なので様々な疾患で治験を蓄積し、ニューロリハ治療の主役になるよう進めてゆきたいと考えています。

図1 ニューロリハビリの適応概要



#BMI(Brain Machine Interface)は当院未導入

専門職の紹介、新しい検査や医療機器・医療技術の紹介

## 公立能登総合病院における 早期リハビリテーションの取り組み

公立能登総合病院 リハビリテーション部 作業療法士 靏島大二郎

公立能登総合病院は、能登半島全域を支える三次救急病院として、急性期医療の中心的役割を担っています。当院リハビリテーション部では、発症・受傷後できる限り早期からの介入を重視し、患者さんの機能回復と社会復帰を支援しています。

近年の診療報酬改定でも早期リハビリテーションの重要性が強調されており、その質の向上は急務となっています。しかし、早期介入は「ただ早ければ良い」というものではありません。病状が安定していない段階で離床を進めるため、疾患ごとに異なるリスク管理が不可欠です。

こうした背景を踏まえ、当院では2025年6月より、看護部とリハビリテーション部が協働し、北陸で初めて早期離床支援機器「Sara® Combilizer (サラ・コンビライザー)」を導入しました。

### ■ Sara® Combilizer の特徴

この機器は、人工呼吸器管理中の患者さんでもベッドサイドで安全に起立練習が行える点が大きな特徴です。起立が難しい場合には座位姿勢での使用も可能で、患者さんの状態に合わせて柔軟に形態を変えられます。

従来の起立台とは異なり、ベッドサイドでの使用が可能のため移乗の負担が少なく、立位・座位姿勢を保持したまま移動できる点も利点です。これにより、患者さん・スタッフ双方の負担軽減と、安全な早期リハビリの実施が実現しています。



人工呼吸器使用例



フラットモード



座位モード



立位モード

### ■ 導入後の活用と期待される効果

導入以来、人工呼吸器管理中の患者さん、呼吸器疾患、脳卒中の患者さんなど、幅広い症例で活用しています。主な目的としては以下が挙げられます。

- 姿勢変換による血圧変動の予防
  - 呼吸筋刺激と呼吸循環の改善
  - 全身への感覚刺激による意識レベルの改善
  - 長期臥床による意欲低下の予防、気分転換
- また、「立ってみたい」「座りたい」といった患者さんの希望を叶える手段としても有効で、身体面だけでなく心理面のリハビリにもつながっています。

### ■ 今後に向けて

リハビリテーション部では、これからも「患者さんご家族ファースト」の姿勢を大切にしながら、より安全で質の高いリハビリテーションの提供を目指して取り組みを進めてまいります。

これだけは言わせて！ — ⑮

さはらファミリークリニック 院長・日本医師会 常任理事 佐原博之

## 鉄腕アトムと医療AI ～人間と知性の関係を考える～



「鉄腕アトム」は、1952年に手塚治虫先生によって世に送り出され、物語上では、アトムは2003年4月7日に誕生しました。アトムのようなロボットはまだ現れていませんが、近年のAIは、驚くほどの速さでアトムの電子頭脳に近づいています。「鉄腕アトム」の歴史は長いのですが、改めて読み返すなら、「アトム今昔物語(全3巻)」がお勧めです。子どもの頃に読んだ方も、大人になってから読み返すと、また違った味わいを感じるでしょう。時空を超えた展開に加えて、アトム誕生のエピソードや、天馬博士とお茶の水博士の対立なども描かれています。「人とロボットは何が違うのか」「心とは何か」といった問いに直面し、アトムは悩みます。

このテーマは、後世の作品にも受け継がれています。浦沢直樹先生の「PLUTO(全8巻)」は、鉄腕アトムの「地上最大のロボット」を原案とし、ロボットに「感情」を与えたときに何が起こるのかを徹底的に掘り下げた作品です。ロボットたちが怒り、悲しみ、ときに憎しみさえ抱く様が、リアルに描かれています。「心を持つとはどういうことか」という問いが、静かに読者自身に突き付けられます。

また、「アトム ザ・ビギニング(既刊25巻、連載中)」は、さらに別の角度からこの問題に光を当てています。若き日の天馬博士とお茶の水博士が親友同士という設定で、「自我」を実現したAIプログラム「ベヴストザイン・システム」を備えたロボット「A106(エーテン・シックス)」を開発します。「A=ア」「10=ト」「6=ム」という語呂合わせからも分かるように、A106はアトムのプロトタイプです。「自我」とは何か、人の自我も、もしかしたら単なるアルゴリズムなのではないかとも考えさせられます。物語の核心はまだ明らかになっていませんが、「アトム今昔物語」をオマージュしたエピソードもあり、今後の展開が楽しみです。

AIの急激な進化により、アトムの物語は、もはや空想の話ではなくなりました。実際に医療の現場でも、AIにどう向き合い、どう活用するかは大きな課題となっています。日本医師会の「AIの臨床利用に関する検討委員会」でもこの問題について議論を重ね、4月15日に「AIに関する臨床的課題と生命倫理について」を公表しました。

この答申では、医療AIの「AI」とは「Artificial Intelligence(人工知能)」ではなく、「Augmented Intelligence(拡張知能)」と位置付けるべきであり、AIは医師の能力を拡張する存在であると整理しています。また、「Human-in-the-Loop」—すなわち最終的な判断には必ず医師が関わること—の重要性が提言されています。

Human-in-the-Loopは耳慣れない言葉かもしれませんが、ここで、AIによる判断と人間の関係における3つの段階についてご紹介します。

- ・ Human-in-the-Loop : 最終的な判断は人間が行う
- ・ Human-on-the-Loop : AIが判断するが、人間が監督する
- ・ Human-out-of-the-Loop : AIが単独で判断する

自ら考え、行動するアトムは「Human-out-of-the-Loop」に近い側面を持つ存在にも見えます。しかし私たちがアトムに安心感を覚えるのは、「良い心を持っている、人に対して思いやりがある」という前提があるからです。現段階のAIにはそのような性質を備えているとは言いがたく、あくまで確率的にもっともらしい答えを導いているにすぎません。いわゆる「ハルシネーション(もっともらしい誤りを出力する現象)」にも注意が必要です。

アトムやその系譜の作品が描いてきたものは、今や単なる未来の空想ではなく、私たちの目の前に現れている「医療分野におけるAIとの向き合い方」すなわち、「人間と知性の関係」という問いであると言えるでしょう。アトムの物語を思い出しながら、この問題について考えてみてはいかがでしょうか。

※「AIの臨床活用に関する検討委員会」の答申と、4月15日の記者会見動画(日医公式YouTubeチャンネル)には、こちらのQRコードからアクセスできます。なお、恵寿総合病院の神野正博先生にも委員としてご参加いただき、答申の執筆にもご尽力いただきました。



七尾看護  
専門学校から

# 七 看 だ よ り



医療系への人材不足が顕著になっている昨今、私ども七尾看護専門学校のこの令和8年度の入学者数は定員の半数にも届きませんでした。将来の展望が全く見通せない中、奇特にも救いの手を差し伸べてくださる方々もいらっしゃいました。一件は七尾みなとロータリークラブ様で、医療用機材、電子黒板、教材研究費、ボランティア運営費そして広報費として総額420万円をご寄付いただきました。もう一件は大阪府堺市の帝塚山学院大学様で、総合心理学部養護教諭課程廃止に伴い実習用モデル人形3種をはじめとした機材の寄贈を受けました。学校の収入はもちろんのこと、自治体の補助金も学生数に応じて交付されるため、学生数の減少それ自体が学校運営を圧迫します。ですから、今回本校が頂戴したご寄付はととてもありがたいものでした。関係各位には深謝いたします。私どもは今回のご厚情を決して無駄にせず、地域医療に貢献する人材育成に還元いたす所存です。

学校長 中村耕一郎

## 令和7年度行事・学校生活



### ◇DX促進授業

電子黒板、教育用電子カルテ、高機能シミュレーターを用いたICT授業に力を入れています。



3月9日  
◇卒業証書授与式  
卒業生22名の門出を全校生徒で祝いました。



## 令和8年度入学式

### 希望を胸に、新たな一歩

令和8年4月9日 入学式が行われました。  
新入生14名が、これから始まる学校生活への期待に心を弾ませました。



### ☆入学生代表宣誓

時に困難な壁にぶつかることもあるかと思いますが、ここに集まった仲間と互いに支え合い、命の尊さと向き合い、地域社会に貢献できる看護師を目指し、真摯に歩んでいくことをここに誓います。

### ☆歓迎の言葉

本校は、専門知識の習得はもちろん、「人とのつながり」を何よりも大切にしています。先生方や私たち先輩も全力でサポートしますので、理想の看護師を目指して共に頑張りましょう。



本校公式SNS 更新中

Instagram	X	facebook

令和9年度 看護学生募集	オープンキャンパス 2026
	高校1・2・3年生 社会人の方
七尾看護専門学校 TEL: 0767-52-9988 七尾市なぎの浦156	7/25(土)・26(日) ☆校内見学・個別相談 ☆看護技術体験 ☆在校生との座談会

# 多くの方々に支えられて 学生たちも頑張っています

贈呈式  
(七尾みなとロータリークラブ様)



最新の機材を活用した授業



仮設住宅訪問



ボランティア活動



# ななお紫蘭の会



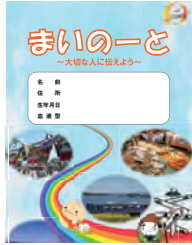
ななお紫蘭の会 会長  
円山医院 院長 円山寛人



## 令和7年度 ななお紫蘭の会 活動報告

### 1、在宅サービス検討部会

令和7年6月17日(火) 10月6日(月)  
内容:七尾市内の在宅サービスの現状と課題について話し合う



### 2、人生会議普及部会

令和7年6月25日(水)  
内容:人生会議の周知・勉強会の実施について

- ◇ 市民への周知
- ◇ 専門学校での授業
- ◇ 専門職に向けての勉強会

### 3、認知症に関する普及啓発と相談窓口の周知

- ◇ 認知症フォーラムinななお～認知症と共に生きる～  
令和7年10月12日(日)  
矢田郷コミュニティセンター視聴覚室  
第1部『介護から学ぶ わははと笑える人生の歩き方』  
講師:なとみ みわ 氏
- 第2部 座談会『認知症の方を支えるチーム作り』  
パネリスト:医療・福祉専門職  
参加者:80名



- ◇ 「認知症ほっとけんステーション」の充実と周知  
(新規登録:市内訪問看護ステーション・グループホーム)
- ◇ 「認知症にやさしいまちプロジェクト」の実施  
(新規登録:スーパー・シルバー人材センター)
- ◇ 「認知症普及啓発イベント」の実施

### 4、地域リーダー研修会

第1回 令和7年8月22日(金)  
オンライン開催



「身寄りのない人への支援に関するガイドラインについて」  
講 師:魚沼市職員・魚沼市社会福祉協議会職員  
参加者:36名

第2回 令和7年10月17日(金) オンライン開催  
「カスタマーハラスメント対応研修」  
講 師:株式会社アイビー・リレーションズ 大村 美樹子氏  
参加者:30名

### 5、県民公開講座

令和7年11月24日(月・祝)  
コスモアイル羽咋大ホール  
上映会「ぼけますから、よろしくお願いします。～おかえりお母さん～」  
講演会&パネルディスカッション  
テーマ「話にくいけど、大切なこと～人生会議、やってみませんか?～」  
講師:信友 直子監督  
座長:松沼 恭一先生 (松沼医院院長  
はくい在宅研究会会長)  
パネリスト:安田 紀久雄先生 (安田医院院長 あじさい会会長)  
円山 寛人先生 (円山医院院長 ななお紫蘭の会会長)  
参加者:446名



### 6、七尾市在宅医療・介護連携推進事業との協働

第1回七尾市在宅医療・介護連携推進協議会  
令和7年6月6日(金)  
第2回七尾市在宅医療・介護連携推進協議会  
令和8年2月20日(金)

# あじさい会

(中能登町在宅医療介護連携を考える会)



中能登訪問看護ステーション  
中村志帆

## つながるBCP ～あじさい会バージョン～

2000年に発足したあじさい会は、年をとっても病気になってもひとりになっても中能登におりたいわいねーの思いを支えるため、在宅医療介護連携の「顔の見える関係づくり」から始まり、多職種で事例検討を重ねる「共有体験の積み上げ」、地域づくりを「住民とともに」、そしてどんな時でも「つながり続ける」などみんなでテーマを話し合ってきました。多職種がすぐに相談し、お互いの役割を確認しながら考え続ける仲間として日々活動を重ねています。

今回は、令和6年1月1日の能登半島地震から2年をかけて話し合いを続けてきた「つながるBCP (中能登町在宅医療介護連携による地域業務継続計画) あじさい会

バージョン」について報告します。

R6年1月の能登半島地震発生当時困った事について、R6年5月の役員会で意見を出し合いました。①それぞれが必死で動いていたため、今欲しい情報がつかみにくかった②もっと他の事業所が何をしていたか知りたかった③中能登町全体の被害状況や復旧状況がタイムリーに分からなかった④訪問できるスタッフが不足した。

震災時はたくさんの支援が来てくださいますが、大混乱の中、情報の集約や役割分担の難しさがありました。また医療介護の人材の少ない能登では、事業継続計画はあるものの一事業所でやりきるためには負担が大きすぎることも見えてきました。

そのためつながるBCPは「早期に情報共有することの

大切さ」「それぞれのできることを明確化し、役割分担をすることで被災者でも支援者に」「チームで動くことで一事業所の負担を軽減できる仕組みづくりが必要」となりました。つながるのがいつものメンバーのため、情報の信頼性が高く、精神的な安定と、次の行動への不安軽減になります。

日々の連携において、それぞれの事業所やスタッフの得意なこと、地域の中での役割をお互い理解していなければ難しいこと、普段の連携を基盤に震災時の連携が成り立つことなどを今回の震災で実感しました。

あじさい会は今後もBCPの話し合いを重ね、日々つながり続けていきたいと思います。



## 医師会の窓

【行事】	令和7年5月～令和8年4月
総務会	令和7年5月2日、6月9日、7月18日、9月1日、10月10日、11月10日、12月8日 令和8年1月9日、2月9日、3月9日、4月13日
役員会	令和7年5月12日、26日、6月16日、7月28日、9月8日、10月20日、11月17日、12月15日 令和8年1月19日、2月16日、3月16日、23日、4月20日
5月19日	社内監査
26日	第13回定時総会
6月8日	春の三師会ゴルフコンペ（優勝：和泉忍／和泉歯科医院）
23日	MSN 編集担当者会議（第83号）
28日	神野正博先生（恵寿総合病院）が全日本病院協会会長に就任
7月18日	第5回七尾看護専門学校ビジョン委員会
23日	令和7年度第1回能登中部小児休日診療協議会
9月18日	令和7年度救急医療講習会
10月16日	石川県医師会との懇談会（七尾市医師会・能登北部医師会・羽咋郡市医師会）
11月27日	七尾看護専門学校宣誓式
12月4日	令和7年度中能登地域産業保健センター運営協議会
5日	令和7年度第1回かかりつけ医等認知症対応力向上研修事例検討会
12日	令和7年度忘年会（番伊）
22日	令和7年度第2回能登中部小児休日診療協議会
令和8年	
1月20日	神野正博先生（恵寿総合病院）全日本病院協会会長就任記念パーティー
29日	令和7年度緊急時医療研修会
30日	MSN 編集担当者会議（第84号）
2月13日	令和7年度第2回かかりつけ医等認知症対応力向上研修事例検討会
19日	令和7年度第21回スポーツ医科学研究会（七尾市スポーツ協会との共催）
3月6日	七尾看護専門学校卒業式
23日	令和7年度臨時総会
4月9日	七尾看護専門学校入学式
【医師会員の異動】 令和7年6月～令和8年5月（順不同、敬称略）	
入会：	岡田圭一郎・吉本昭・浅井一希・北恵太・桃井午左衛門・下崎琳・尾山遼・平辻寛・魚谷雄太郎・崎村祐介・勝山結慧・丸箸駿太・藤澤開・阿部祐里香・井上大・悦永徹・鶴飼寧々・安井佑希・香山竜太郎・高橋奏衣・小西杏佳・加藤良典・川口詩織（以上、恵寿総合病院）、棟田誠・白木重光・竹中亮太（以上、公立能登総合病院）
退会：	吉岡哲也・岸田晟利・吉尾隆利・上野和音・掛下和幸・道谷直樹・山口貴之・塩谷昌大・荒木崇博・梅村太一・上出貴洋・清水一秀・内山恵理・稲岡涼・沼田龍太郎・船山拓真（以上、恵寿総合病院）、和田英男・濱直志・長谷部芳典（以上、公立能登総合病院）、佐原吉博（R8.2.18 逝去／さはらファミリークリニック）、押切貴博（さはらファミリークリニック）、時國信弘（浜野介護医療院）
異動：	桑原崇（桑原母と子クリニック→公立能登総合病院、R7.11.1より）、中尾義広（なかお内科医院→なごみの里鹿島、R8.4.1より）、真智俊彦（公立能登総合病院→恵寿総合病院、R8.4.1より）



『夏この頃』

七尾市医師会 副会長 藤田晋宏

5月の中旬、夕暮れ時、診察室からの一風景。ニセアカシアの花が満開でぶどうの房のように咲き誇っている。木立からは30m程離れているが、窓際に行かなくても部屋に甘い蜜の香りが漂ってくる。院内はスタッフもみな帰られ、静かで、ウグイスもときおり鳴き、辺りは夕陽に照り、何とも言えぬ美しい光景だ。

ここ数年のことと言えば、COVID-19が世界流行し、能登の大地震が起り、まだまだ復興の半ば。外国では戦争が始まり、資材や石油燃料の価格が高騰し、世界はめまぐるしく混沌として行くように思われる。平穏な日々を願うが、それとは裏腹にまさかの出来事が起こる。家族の中でもそれは例外ではない。いろいろあるが、生きてゆかねばならない。

吉田拓郎の歌で「今日までそして明日から」を口ずさみながら、ふと自分のこれまでや世話のかかる子供たちのこれまで、社会のこれまでを思い巡らし、歌詞に共感している自分がある。若者のきらきらした感性で作られた歌は時代が移ろうが色褪せないものだ。それは物事の核心を突いたものであり、真理でもあり、共通の悩み事であるからなのかもしれない。

中学生の多感な時、よく聴いた「なごり雪」、「22

才の別れ」、「神田川」、「赤ちょうちん」、「妹」、「夏この頃」・・・。随分とかぐや姫にはまっていたなあ。やっと大学に入り、近くのスーパーで買い物をしていた流れて来た歌、壊れかけのRadio (徳永英明) を初めて聴いた時の感動を覚えている。歌は当時の暮らしの背景を思い出させてくれる。そう言えば、父は寮歌を愛し、幼少の頃よりそれをよく聴いて育った。母の背中におぶさりやさしい声を聴いたのをおぼろげに覚えている。姉はピアノをよく弾いていて、中でも「トルコ行進曲」が印象に残っている。弟とはブルーハーツをよく歌ったなあ。そんな家族も姉以外みな逝ってしまったが、命のバトンは継がれて新しい家族が自分とつながっている。

5月の下旬。私の診察室から眺めるニセアカシアは、花はもう散ってしまったが、枝は青々と葉を繁らせ、風に左右上下にそよぐ光景を眺めながら、思い出を巡らしている。風に吹かれ、時に強く揺さぶられる人生だが、生きてゆこうと。人生には目的がある。大切な人との思い出はときに落ちようとする自分を救ってくれる。この歳になって「愛燦々」(小椋桂) が心に沁みる。人は一人では生きられず、支え合いながら生きてゆくもの。心にやさしい静けさがひろがる。

短 信

- ◆令和7年度石川県医師会医療功労表彰 (知事表彰)  
上木 修 (公立能登総合病院)
- ◆令和7年度石川県医師会医療功労表彰 (長期医療従事会員表彰)  
池崎 綾子 (さはらファミリークリニック)
- ◆令和7年度石川県知事表彰 (母子保健事業)  
安田 豊 (恵寿総合病院)
- 令和8年春の叙勲 (旭日双光章)  
安田紀久雄 (安田医院)
- ◆◆令和7年度七尾市・中能登町在宅当番医事業報告
  - 休日当番医実施日数：73日
  - 来院患者数
    - 七尾市・中能登町 (一般)：1,206人
    - 七尾市・中能登町・羽咋郡市 (広域小児)：1,523人

【会員訃報】

さはらファミリークリニック/佐原吉博先生 (七尾市石崎町) が令和8年2月18日にご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

(発行責任者) 北村 勝  
メディカルサロンななお編集部  
(編集委員) 五十音順  
荒井美奈子・上木 修・円山 寛人・奥村 義治  
鍛冶 武和・鎌田 徹・木元 一仁・佐原 博之  
佐原まゆみ・高澤 雅至・田中 文夫・中村耕一郎  
根上 昌子・藤田 晋宏・安田紀久雄・神前昭太郎



編 集 後 記

まず、佐原吉博先生のご生前のご指導に深く感謝申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。

今号は時勢を鑑みた読み応えのあるものとなりました。巻頭の写真と巻末の藤田先生のご挨拶に支え合って生きている人のエネルギーを感じます。北村会長と中村学校長の記事には地域医療の継続発展と七看の存続意義が滲み出ています。中尾先生と瀧崎先生からは両先生の今昔が語られ、お元気なお便りを嬉しく思いました。神野正博先生、全日本病院協会会長ご就任おめでとうございます。このタイミングでのご就任には運命的なものを感じています。先生には獅子奮迅のご活躍を期待するところです。佐原博之先生からは今 transforming している医療に於いて、AIの進化の先にある「心」と「注意」について興味深く綴られています。また、地域医療の中核となる両総合病院では奇しくも共に6月から新たなリハビリ治療が始まり、今後が楽しみです。元遠藤関の記事も読み応えがあります。

結びに上木、池崎、安田豊先生方の受賞並びに安田紀久雄先生の受章おめでとうございます。

(円山寛人)

発行 七尾市医師会  
〒926-0854 七尾市なぎの浦156  
TEL (0767) 52-2297 FAX (0767) 53-6548